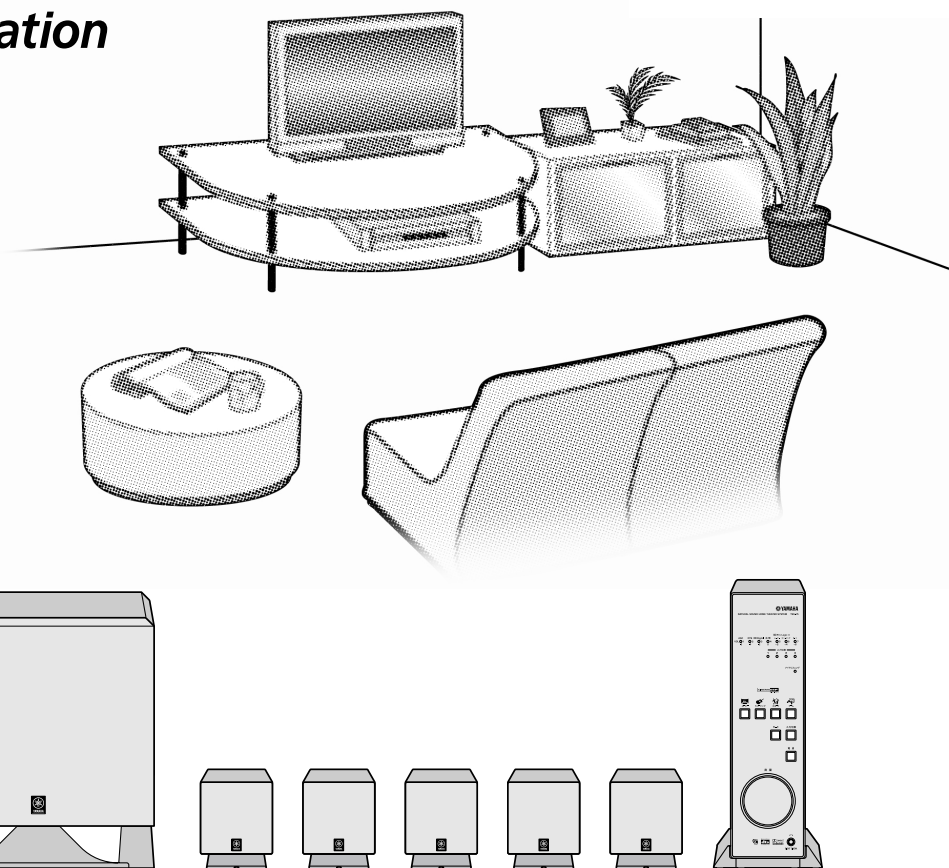
ホームシアターサウンドシステム

TSS-15

（アンプユニット× 1、フロント／センタースピーカー× 3、
サラウンドスピーカー× 2、サブウーファー× 1）

取扱説明書

CinemaStation

ヤマハ ホームシアターサウンドシステムTSS-15をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

ヤマハでは、製品をご購入いただきましたお客様へのサポート・サービスの充実を図るため、「お客様登録」をお願いしております。
以下のシネマステーションホームページからご登録ください。
http://www.CinemaStation.com
上記 URL から、「日本>ユーザー登録」へお進みください。

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。
たとえば🛇は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- 異常なにおいや音がする。 • 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。
- 重いものを上に載せない。 • ステープルで止めない。 • 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。 • 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- 浴室･台所･海岸･水辺 • 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解･改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理･調整は販売店にご依頼ください。

注意

長時間使用したとき、本機が発熱して高温になることがあります。

高温になったときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：
- 布やテーブルクロスをかけない。 • あおむけや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

必ず行う

リチウム電池はお子様の手の届かないところに保管してください。

誤って飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機の通風孔にものを入れない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- サブウーファーの振動によりものが落下してけがの原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

必ず行う

スピーカーケーブルは必ず壁等に固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが転落・落下し、故障したり、けがの原因となります。

必ず行う

取付け後は必ず安全性を確認する。

また、定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。
取付け箇所、取付け方法の不備による事故等の責任は、一切負いかねますのでご了承ください。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

再生を始める前には、音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

移動をするときには、本機（または接続機器）の電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

必ず付属の専用ACアダプターを使用する。

付属の専用ACアダプター以外の使用は、火災や感電の原因となることがあります。

必ず行う

電源プラグを確実にコンセントの根もとまで差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱･火災の原因となることがあります。

禁止

持ち運ぶときにはサブウーファーのポート(側面開口部)に手をかけない。

ポートがはずれたり、本機を落としたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

サブウーファーのすぐ横には割れやすいものなどを置かない。

サブウーファーからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン･シンナー･合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

フロント及びサラウンドスピーカーを設置する際は、以下のことに注意する。

- 壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しないでください。
- 薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けないでください。

必ず行う

センタースピーカーを設置する際には、付属の固定テープを使用して確実に固定する。

固定テープを貼る場所のほこりやよごれを取り除いてください。また、固定テープの粘着面に触れないでください。粘着力の低下により、スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。

禁止

センタースピーカーを設置する際には、スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。

スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。

プラグを抜く

移動する場合は、電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、接続コードを外してから行ってください。

落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

本機に乗ったり、ぶら下がったり、寄りかかったりしない。

転倒したり破損したりして、けがの原因となることがあります。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

禁止

車に搭載して使用しない。

本機は家庭内で使用することを目的としてつくられています。カーオーディオ用としては使用できません。

特長

● **映画館の臨場感をホームシアターで！**

映画館で味わうような迫力と臨場感あふれる5.1チャンネルオーディオの音場を、TSS-15ホームシアターサウンドシステムでお楽しみください。

● **ドルビーデジタル、ドルビープロロジックII 、DTSデコーダー、さらにAACデコーダーを搭載**

本システムはDOLBY SURROUND、DOLBY DIGITAL または DIGITAL dts SURROUND マークのついたソフトの音場を再現します。また、通常のステレオ音声をサラウンドで再現することもできます。
さらにAACデコーダーの搭載により、BSデジタル放送などの5.1チャンネル音声もお楽しみいただけます。

● **サイレントシネマ**

ヘッドホンをお使いの場合でも、サイレントシネマ機能による仮想サラウンドの音場をお楽しみいただけます。

● **バーチャルサラウンド**

フロント／センタースピーカーとサブウーファーだけでも仮想サラウンドの音場を楽しめます。
さらにサラウンドスピーカーを追加すれば、より迫力のある音をお楽しみいただけます。（サラウンドスピーカーからはフロントスピーカーと同じ音が出ます。）

■ 本書の記載について

● ヒントは操作上のアドバイスなど補足的な説明です。
● 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
● 本取扱説明書は製品開発に先がけて印刷されております。その後、操作性の向上、その他の理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
● 説明の便宜上、文中のイラストや名称等が実際の製品や梱包箱等と異なる場合があります。

Active Servo Technology

サブウーファーは豊かな重低音を再生するヤマハアクティブサーボテクノロジーを搭載しています。

SILENT ™ CINEMA

「サイレントシネマ/SILENT CINEMA」はヤマハ株式会社の登録商標です。

QD-Bass TECHNOLOGY

サブウーファーは、キャビネット底面のピラミッド型拡散板により水平4方向に低音成分を効率よく放射する"QD-Bassテクノロジー"を採用しています。

DOLBY DIGITAL PRO LOGIC II

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

目次

準備

準備する

操作

操作する

その他の情報

その他の情報

DIGITAL dts SURROUND

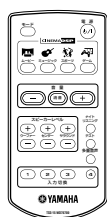
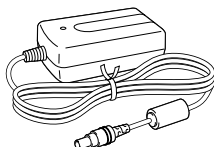
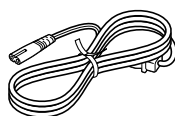
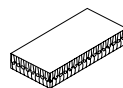
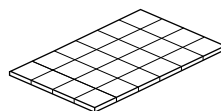
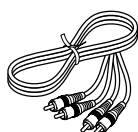
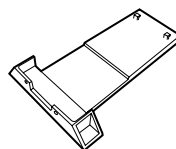
DTSおよびDTSデジタルサウンドはデジタルシアターシステムズの登録商標です。

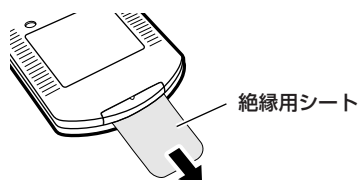
AAC

AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

リモコンを準備する

絶縁用シートをゆっくりと引き抜く

リチウム電池はあらかじめリモコンに入っています。
絶縁用シートを引き抜いてご使用ください。

電池が消耗したときは交換してください

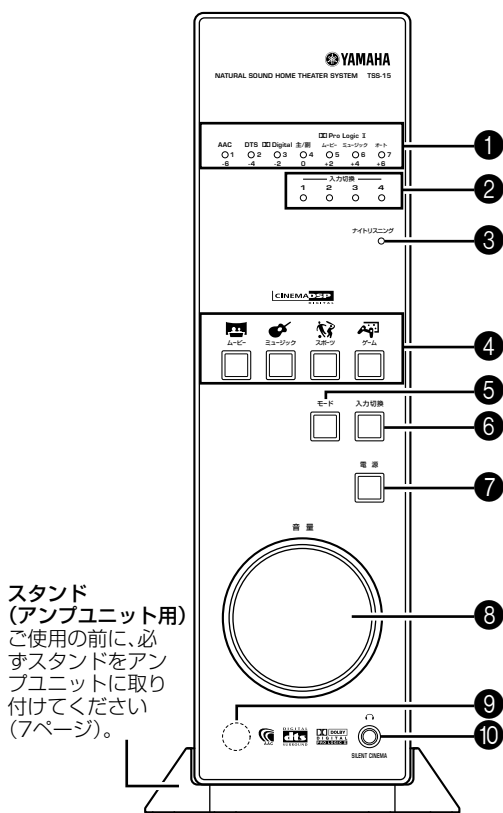
電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなります。このような場合は、新しいリチウム電池に交換してください。交換のしかたは19ページをご覧ください。

ご注意

電池の取り扱いを誤ると火事や爆発などの原因になることがありますので、十分ご注意ください。

- 電池を分解しないでください。
- 新しい電池に交換するときはプラスとマイナスを逆にしないでください。火事や爆発の原因になることがあります。
- リチウム電池や、電池の入ったリモコンを直射日光が当たる所など温度が上昇する場所に置かないでください。
- 電池を充電しないでください。
- 電池を交換するときは、必ずリチウム電池CR2025をご使用ください。
- 電池はお子さまの手の届かないところに保管してください。あやまって飲み込んだりした場合は、大至急医療手当てを行ってください。
- 電池を捨てるときは必ずテープなどにくるみ、お住いの地方自治体で定める規則に従って破棄してください。火のなかには絶対に入れないでください。
- 電池が液漏れをした場合はただちに電池を破棄し、漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。液にふれるとやけどをすることがあります。やけどをした場合はただちに水で洗い流し、医療手当てを受けてください。

各部の名称とはたらき

■ アンプユニット（フロントパネル）

スタンド（アンプユニット用）
ご使用の前に、必ずスタンドをアンプユニットに取り付けてください（7ページ）。

❶ 音量／モードインジケーター

音量インジケーター1～7は音量やレベルを表示します。最大の音量にすると、1～7すべてのインジケーターが点灯します。
インジケーター(1～7)にはもう一つ機能があり、入力した信号の種類や選択したモードによって次のように点灯します。

1　AAC(アドバンストオーディオコーディング)
AAC信号を入力すると、このインジケーターと7(オート)が点灯します。シネマDSPプログラムを選ぶと、7(オート)は消灯します。

2　DTS
DTS信号を入力すると、このインジケーターと7(オート)が点灯します。シネマDSPプログラムを選ぶと、7(オート)は消灯します。

3　DD Digital
ドルビーデジタル信号を入力すると、このインジケーターと7(オート)が点灯します。シネマDSPプログラムを選ぶと、7(オート)は消灯します。

4　主／副
BS／地上波デジタル放送(AAC方式)で主音声(メイン)／副音声(サブ)の音声がある場合には、リモコンの多重音声ボタンを押して、主音声(主)、副音声(副)を選ぶことができます。主音声を選ぶとインジケーターが緑で点灯し、副音声を選ぶと赤く点灯します。主／副両音声を選ぶとインジケーターは消灯します。

5　ムービー
Dolby Pro Logic II MOVIEモードを選ぶと点灯します。

6　ミュージック
Dolby Pro Logic II MUSICモードを選ぶと点灯します。

7　オート
オートモードを選ぶと点灯します。AAC信号、DTS信号またはドルビーデジタル信号が入力されると、インジケーター1、2または3もそれぞれ点灯します。「ソースの音声を忠実に再生する」(16ページ)をご覧ください。

❷ 入力切換 1～4インジケーター
選択した入力(リアパネルの入力端子[1]～[4])のインジケーターが点灯します。

❸ ナイトリスニングインジケーター
ナイトリスニングモードを選ぶと点灯します。

❹ CINEMA DSPキー
シネマDSP音場プログラム(ムービー／ミュージック／スポーツ／ゲーム)を選びます。お好みのCINEMA DSPキーを押すと点灯します。
「シネマDSP音場を楽しむ」(15ページ)をご覧ください。

❺ モードキー
キーを押すたびに、Dolby Pro Logic II ムービー、Dolby Pro Logic II ミュージック、オートの順でモードが変わります。(オートモードにするとドルビープロロジックIIデコーダーがオフになります。)
「ソースの音声を忠実に再現する」(16ページ)をご覧ください。
モードキーを押すと、シネマDSP音場プログラムはキャンセルされます。

❻ 入力切換キー
キーを押すたびに入力ソース(リアパネルの入力端子[1]～[4]に接続した機器)を切替えます。選択した入力切換インジケーターが点灯します。

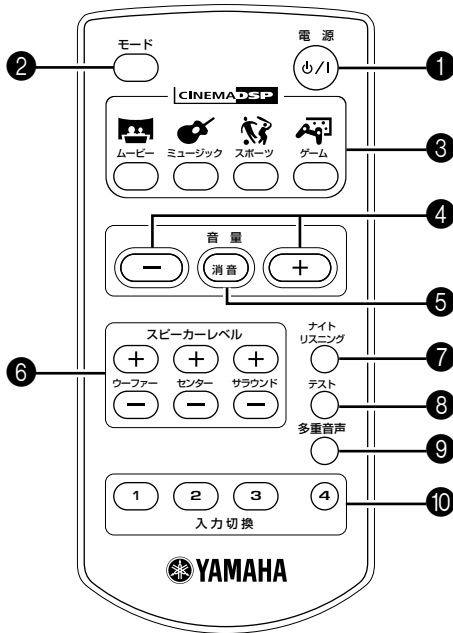
❼ 電源キー
キーを押すごとに、アンプユニットをスタンバイ状態から電源オンに(またはその逆に)切替えます。電源をオンにすると電源キーが点灯します。

ヒント
スタンバイ状態では、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

❽ 音量ツマミ
右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。現在の音量がインジケーター(1～7)の点灯で表示されます。

❾ リモコン受光窓
付属リモコンからの信号を受信します。

❿ SILENT CINEMA端子
ヘッドホンを接続する端子です。サイレントシネマ機能でお楽しみいただけます。ヘッドホンを接続しているときは、スピーカーから出力される音量が下がります(約60dB)。

■ リモコン

❶ 電源キー
キーを押すごとに、アンプユニットをスタンバイ状態から電源オンに(またはその逆に)切替えます。

ヒント
スタンバイ状態では、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

❷ モードキー
キーを押すたびに、Dolby Pro Logic II ムービー、Dolby Pro Logic II ミュージック、オートの順でモードが変わります。(オートモードにするとドルビープロロジックIIデコーダーがオフになります。)
「ソースの音声を忠実に再現する」(16ページ)をご覧ください。
モードキーを押すと、シネマDSP音場プログラムはキャンセルされます。

❸ CINEMA DSPキー
シネマDSP音場プログラム(ムービー／ミュージック／スポーツ／ゲーム)を選びます。お好みのCINEMA DSPキーを押すと、アンプユニットのCINEMA DSPキーが点灯します。
「シネマDSP音場を楽しむ」(15ページ)をご覧ください。

❹ 音量+/−キー
−を押すと音量が小さくなり、＋を押すと大きくなります。現在の音量がアンプユニットのインジケーター(1〜7)の点灯で表示されます。

❺ 消音キー
一時的に音声を消したいときに押します。もう一度キーを押すともとの音量に戻ります。消音状態では、アンプユニットの音量インジケーターが点滅します。

❻ スピーカーレベル +/−
センター、サラウンドスピーカーとサブウーファーの音量を調節して、各スピーカー間の音量バランスを最適にします。

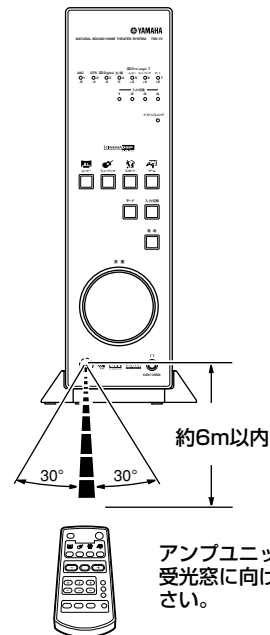
❼ ナイトリスニングキー
ナイトリスニングモードをオン／オフします。アンプユニットのナイトリスニングインジケーターが点灯します。
「ナイトリスニング」(17ページ)をご覧ください。

❽ テストキー
スピーカーからテストトーンを鳴らすときに押します。テストトーンは各スピーカー間の音量バランスを調節するのに役立ちます。音量を調節するには音量＋／−キーを使います。

❾ 多重音声キー(主音声／副音声を切り替える)
BS／地上波デジタル放送などのAAC信号で使われている、モノラル二重音声入力時に、本機が出力する音声(主音声／副音声)を選択します。

ヒント
- 入力がモノラル二重音声以外の場合、多重音声の設定は出力に影響しません。
- 主音声または副音声を選択している場合、ドルビープロロジックIIは選択できません。

❿ 入力切換キー(1、2、3、4)
入力ソース(リアパネルの入力端子1〜4に接続した機器)を選びます。アンプユニットの入力切換インジケーターが点灯します。

■ リモコンの使用について

リモコンの取り扱いについてのご注意
- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  - −ストーブのそばや風呂場など、温度･湿度の高いところ。
  - −ほこりの多いところ。
  - −極端に寒いところ。

設置について

システム構成

本システムは以下の製品で構成されています。

- アンプユニット × 1台
- フロントおよびセンタースピーカー（3mコード付き）× 3台
- サラウンドスピーカー（10mコード付き）× 2台
- サブウーファー × 1台

各スピーカーの役割

サラウンド再生の場合、フロントスピーカー(右、左)はメインチャンネルからのメイン音声信号を再生します。また、サラウンドスピーカー(右、左)はサラウンドチャンネルからの効果音等を再生し、センタースピーカーはセンターチャンネルからの音声信号(人物の会話など)を再生します。サブウーファーは低音補強用として、フロント、サラウンド、センターの各チャンネルからの低域成分のみを集め再生します。また、ドルビーデジタルやDTS再生の場合、サブウーファー(LFE)チャンネルからの特殊低域効果音なども再生します。

スピーカーの配置

スピーカーの配置は、システム全体の音質に大きく影響します。下記の説明にしたがい、各スピーカーを適切な位置に設置してください。

ヒント

フロント／センター／サラウンドスピーカーは壁に掛けることもできます(6ページ)。

フロントスピーカー

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビ(モニター)を設置している場合は、テレビ(モニター)から少し離れた左側と右側に設置してください。

サラウンドスピーカー

リスニングポジションよりも後方、または部屋の両サイドに設置します。お部屋の状況に合わせて、床や棚に置いたり、壁に掛けることもできます。

センタースピーカー

左右フロントスピーカーの間(各フロントスピーカーから等間隔の位置)に設置します。

ヒント

センタースピーカーはテレビ(モニター)の上に置くこともできます(7ページ)。

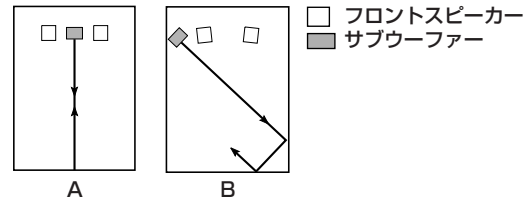
サブウーファー

サブウーファーはリスニングポジションの斜め前方で、安定した平らな固い床の上に置きます。

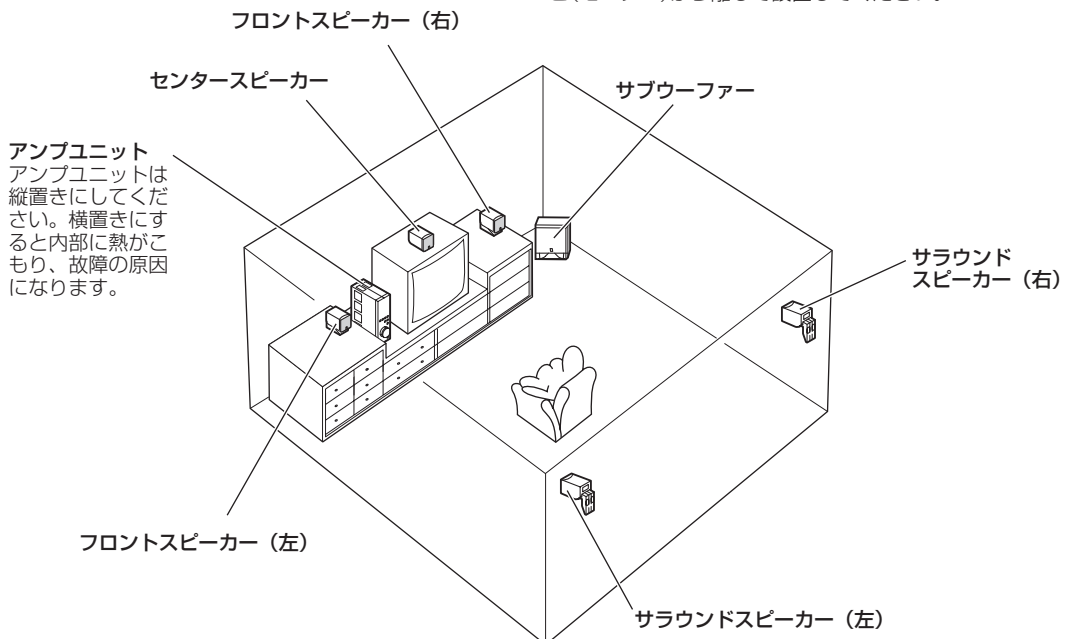
サブウーファーの向き

図Aのように壁に対して正面に向けて設置すると、サブウーファーからの音と壁からの反射音がぶつかり互いに打ち消し合って聴こえにくくなるので、図Bのように壁に対して斜めに設置すると効果的です。

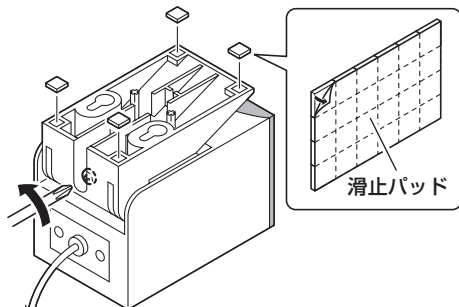
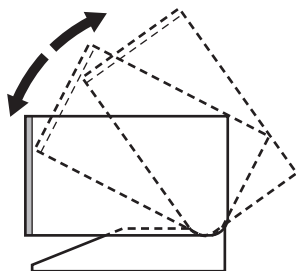
A

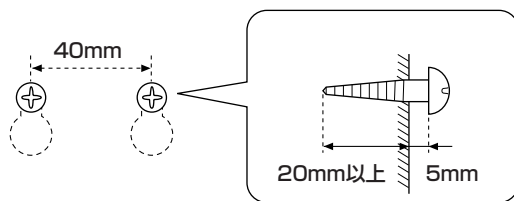
B

□ フロントスピーカー
■ サブウーファー

ご注意

テレビ(モニター)の映像が乱れるときには、スピーカーをテレビ(モニター)から離して設置してください。

■ フロントノセンターノサラウンドスピーカーの角度を調整するには

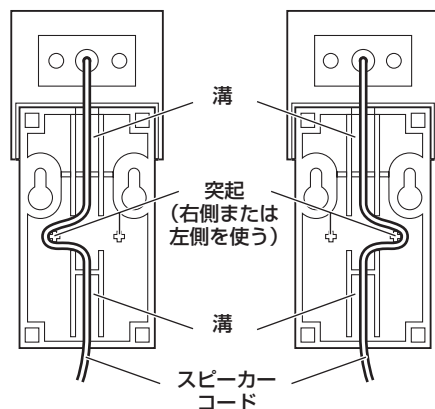
1 スピーカースタンドを固定しているネジを、スタンドが動く程度にゆるめます。

＊安定性向上のため、スピーカー底面の四隅に付属の滑止パッドを貼り付けます。

2 スピーカーを適切な角度に調整し、ネジを締め直します。

■ フロントノセンターノサラウンドスピーカーを壁に掛けるには

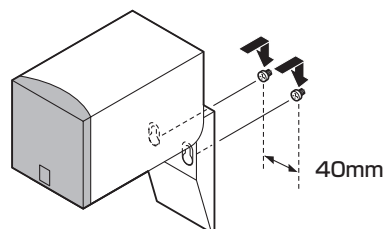
1 壁に市販のタッピングネジ2本（直径4mm 程度）を取り付けます。

2 スピーカーの角度を調整します。

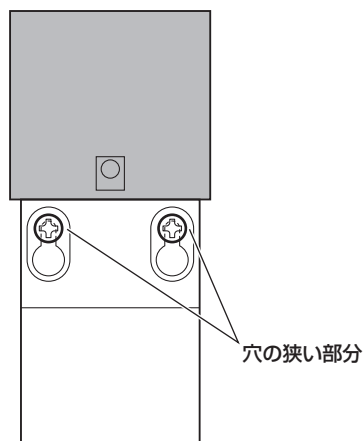
上記の「フロントノセンターノサラウンドスピーカーの角度を調整するには」の手順どおりに調整してください。

3 スピーカーコードをスピーカースタンド裏側の溝と突起にはわせます。

左右どちらの突起を使ってもかまいません。

ご注意

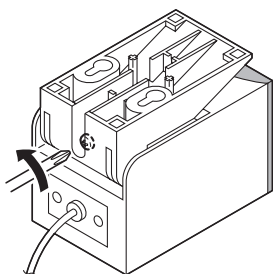
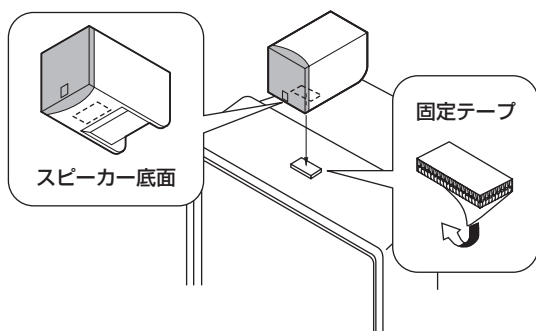
万が一のスピーカー落下防止のために必ずおこなってください。

4 スピーカースタンドの穴をタッピングネジに引っ掛けます。

5 タッピングネジが、スピーカースタンドの穴の狭い部分に確実に入っていることを確認します。

ご注意

（重要なご注意です。必ずお読みください。）

- スピーカーの重量は１台約0.4 kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 釘などの抜けやすいものは使用しないでください。長時間の使用や振動で抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- スピーカーコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは必ず固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。
  取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

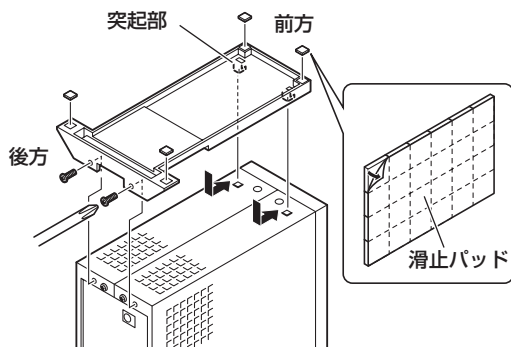
■ センタースピーカーをテレビ（モニター）の上に設置するには

1 **スピーカースタンドを固定しているネジとワッシャーを取り外します。**
ネジとワッシャーは紛失しないように保管してください。

2 **スピーカーからスタンドを取り外し、付属の固定用テープをセンタースピーカー底面とテレビ（モニター）の上面に貼り、確実に固定します。**

ご注意

- テレビ(モニター)の上面が次のような場合は、スピーカーを設置しないでください。
  – 上面が傾いている。（必ず水平な面に設置してください。）
  – 上面の面積がスピーカーの底面より小さい。
- スピーカーは防磁設計となっていますが、コンピューターのモニターやテレビの近くに設置すると画像が歪むことがあります。そのような場合は離してご使用ください。
- テープをはがした後、接着面には触れないでください。接着強度が弱くなります。
- 固定テープを貼る部分はきれいに拭いておいてください。ほこりや油、水などが付着していると、テープの接着強度が弱くなり、スピーカーが落下する恐れがあります。

■ アンプユニットにスタンドを取り付ける

安定性向上のため、必ずアンプユニットに付属のスタンドを取り付けてください。
はじめに、スタンド底面の四隅に付属の滑止パッドを貼り付けます。
次に、スタンドの前後方向を確認し、前方の突起部をアンプユニットの凹部にはめ込んでからアンプユニットにかぶせ、付属のネジで取り付けます。

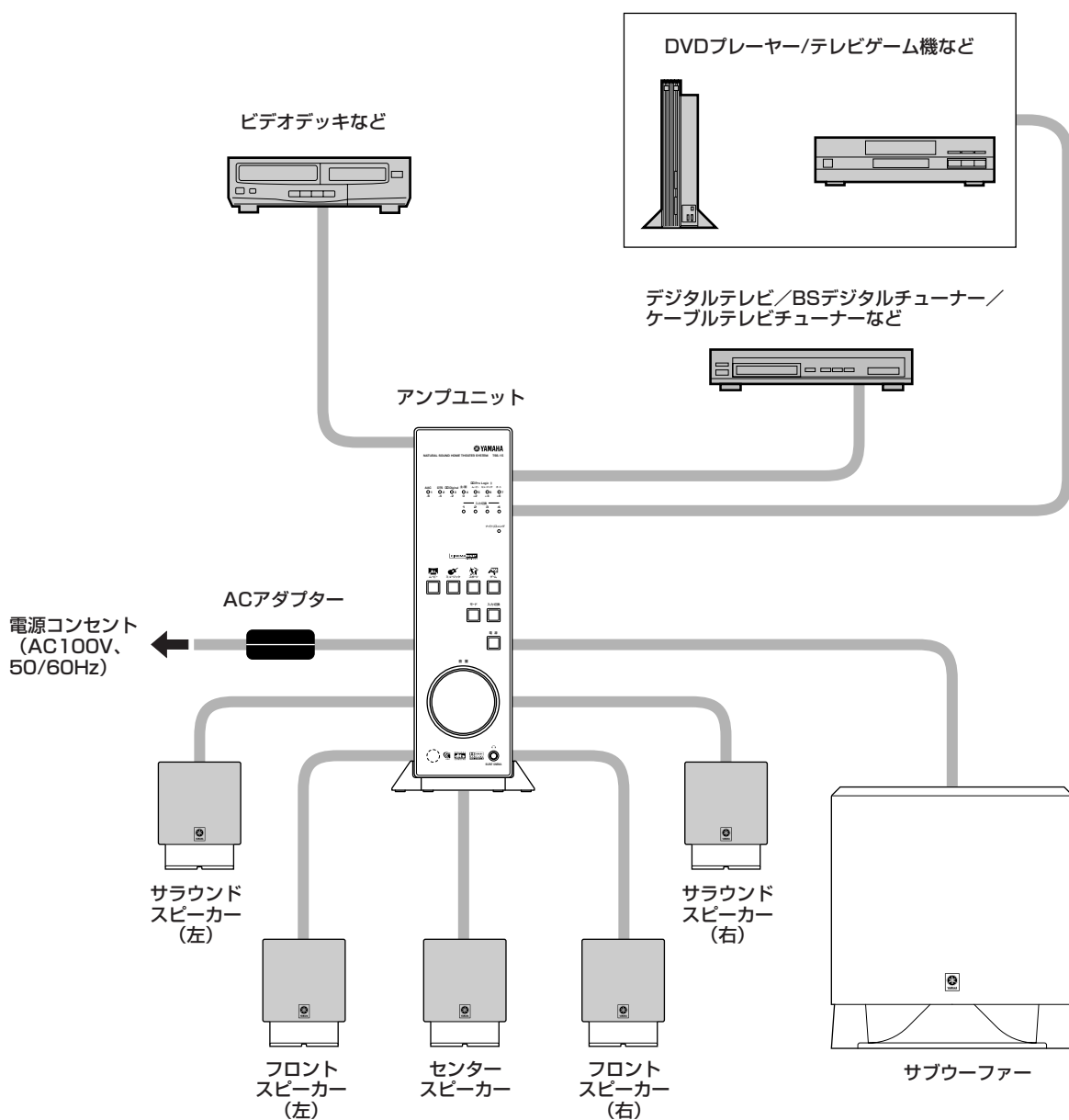
準備する

接続のしかた

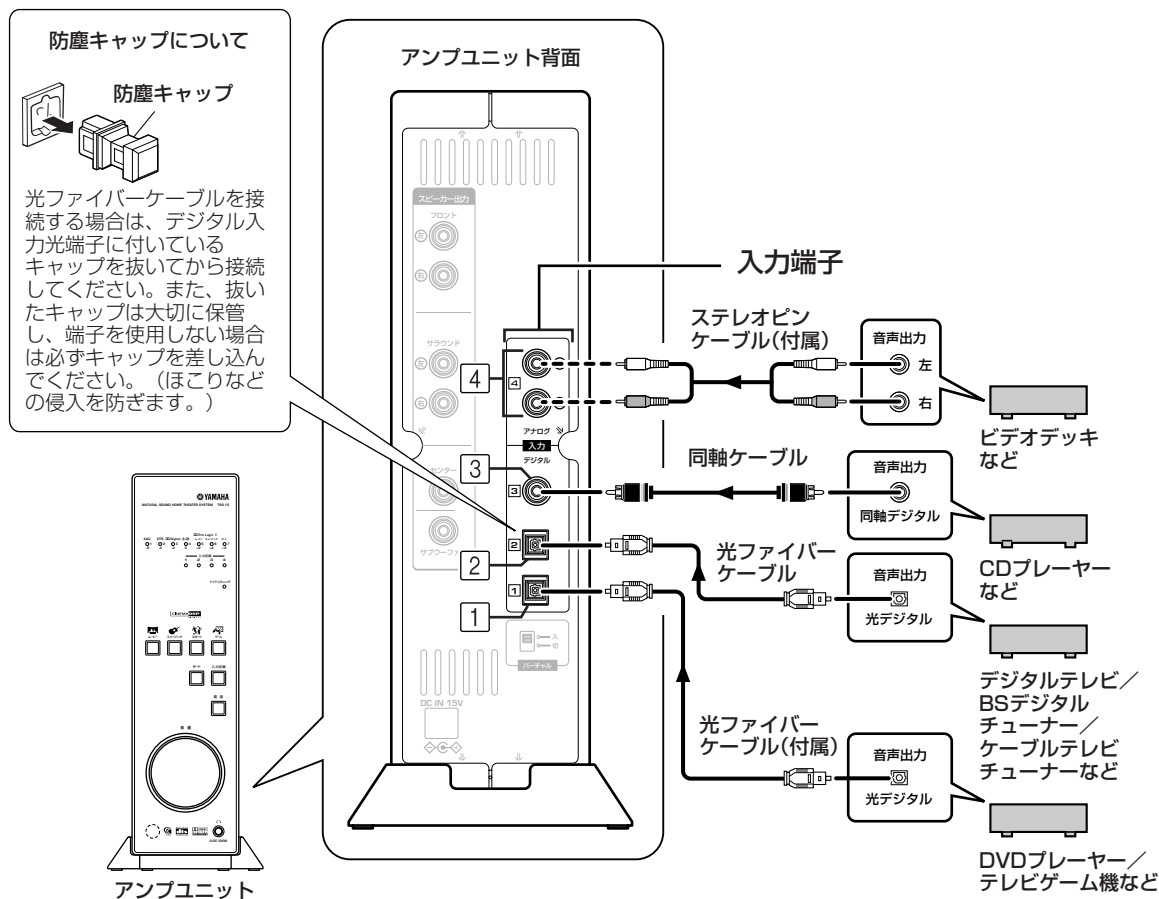
接続をおこなう前に、接続するすべての機器の電源コードをコンセントから外してください。また、付属のACアダプターは接続が完了した後でアンプユニットに接続してください。

正しい接続のために

- 音声信号の左端子(白)には接続コードの白のプラグを、右端子(赤)には赤のプラグを接続します。
- プラグは、しっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていないと音が出なかったり雑音の原因となります。
- 接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

ご注意

本システムは、テレビ(モニター)やビデオ機器のビデオ信号用入/出力端子とは接続できません。

外部機器とのつなぎかた

接続には、お持ちの機器にあった下記の接続ケーブル(付属または市販)をご用意ください。

1、2 光デジタル入力端子

DVD プレーヤー、テレビゲーム機、BSデジタルチューナーなどの光デジタル出力端子と光ファイバーケーブルを使って接続します。1、2 両方の端子に光デジタル出力端子のある機器を接続できます。接続した機器からのデジタル音声をお楽しみいただけます。

3 同軸デジタル入力端子

DVD プレーヤー、CDプレーヤー、テレビゲーム機などの同軸デジタル出力端子と同軸ケーブルを使って接続します。接続した機器からのデジタル音声をお楽しみいただけます。

4 アナログ入力端子

ビデオカセットレコーダーなど、デジタル出力端子がない機器のアナログ音声出力端子とステレオピンケーブルを使って接続します。

ヒント

オーディオ出力用3.5mm ステレオミニ端子のみを装備しているパソコンなどを接続する場合は、ステレオミニプラグ／ステレオピン変換ケーブルを使用して、4 アナログ入力端子に接続してください。

ご注意

アンプユニット背面にはビデオ入力端子がありません。アンプユニット背面に接続されたDVDプレーヤーなどを再生するには、DVDプレーヤーのビデオ出力をテレビ(モニター)に接続してください。

ヒント

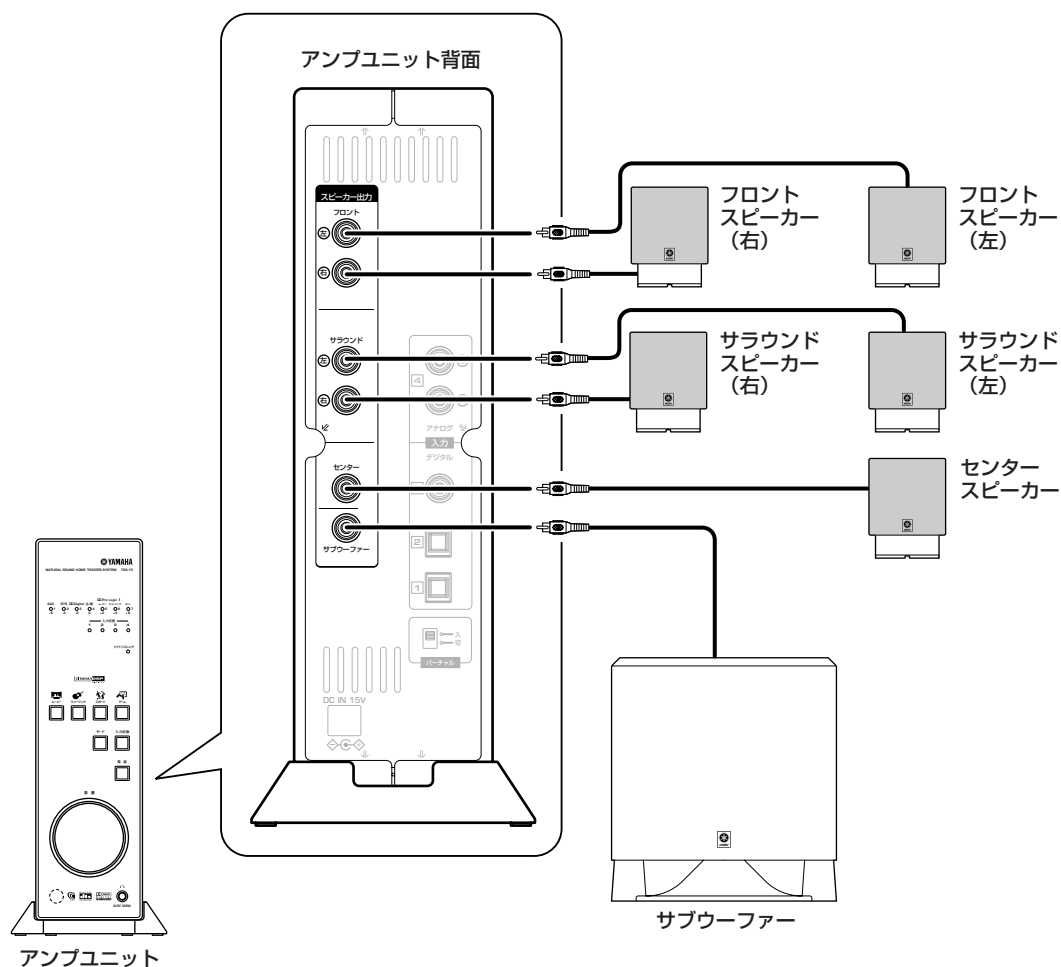
本システムでは録音、録画はできません。

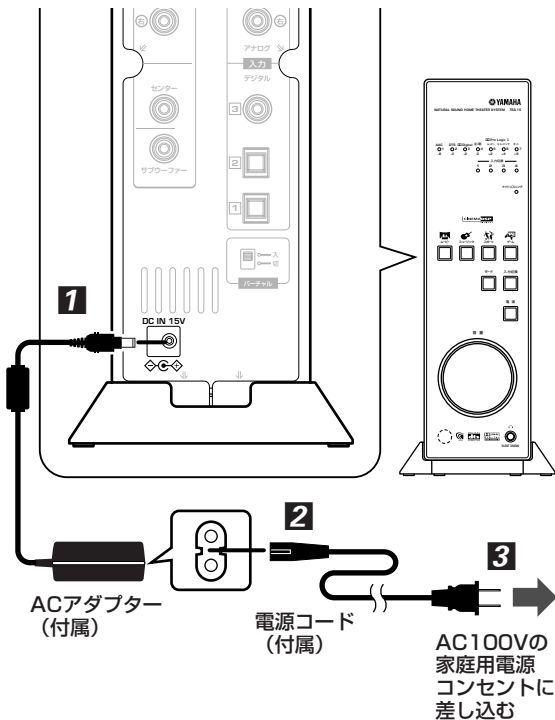
準備する

スピーカーのつなぎかた

アンプユニット背面にスピーカーを接続します。
フロントスピーカー：3mコード付き(2台)→フロント㊨端子、フロント㊧端子に1台ずつ
センタースピーカー：3mコード付き(1台)→センター端子
サラウンドスピーカー：10mコード付き(2台)→サラウンド㊨端子、サラウンド㊧端子に1台ずつ
サブウーファー：4mコード付き(1台)→サブウーファー端子

ご注意

アンプユニット背面のスピーカー端子に同梱のスピーカー以外は接続しないでください。

- アンプユニット背面のスピーカー出力端子は、付属のフロント／センター／サラウンドスピーカーおよびサブウーファーの接続専用に設計されています。これらの端子には、絶対に他のAVアンプやパワーアンプなどを接続しないでください。誤動作を起こすだけでなく、アンプユニットの故障や火災等の原因にもなります。
- スピーカーコードは手や足にひっかけないよう、固定してください。

電源コードのつなぎかた

もう一度アンプユニットに接続した機器が確実に接続されているか確認してください。最後に、電源コードのプラグを家庭用コンセント(100V、50/60Hz)に差し込みます。

1 付属の専用ACアダプターをアンプユニット背面に接続する。

2 付属の専用ACアダプターに付属の電源コードパワーケーブルを接続する。

3 電源コードのプラグを家庭用コンセント（100V、50/60Hz）に差し込む。

ご注意

- 付属の専用ACアダプターを机などの上に置く場合は、落下することのないよう必ず固定してください。もし落下した場合、アダプターや他の機器の破損だけでなく、けがをする原因にもなります。
- 必ず付属の専用ACアダプターをご使用ください。他のACアダプターの使用は本機の故障や火災の原因となります。
- 付属の専用ACアダプターは、本機以外の機器に使用しないでください。ACアダプターや、使用した機器の故障や火災の原因となります。

スピーカーの音量レベルを調節する

テストトーンを出力して、視聴位置で聞こえる各スピーカーからの音の大きさが同じになるように調節します。この調節はドルビーデジタル、ドルビープロロジックII、DTSやAACを最良の環境で使用するために重要です。

ご注意

- ヘッドホンをつないでいると、音声出力レベルを調整できません。音声出力レベルを調節する前に、ヘッドホンを取りはずしてください。
- ナイトリスニングをオンにしても、テストトーンの音量は小さくなりません。夜間に調節する場合はご注意ください。

テストトーンで調節する

付属のリモコンを使って、各スピーカーの音量を調節します。

ご注意

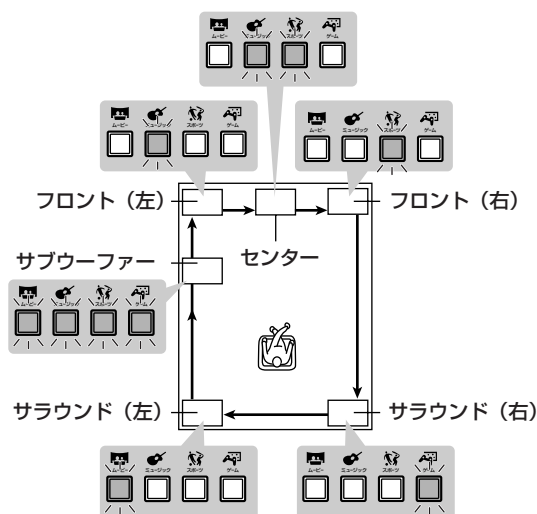
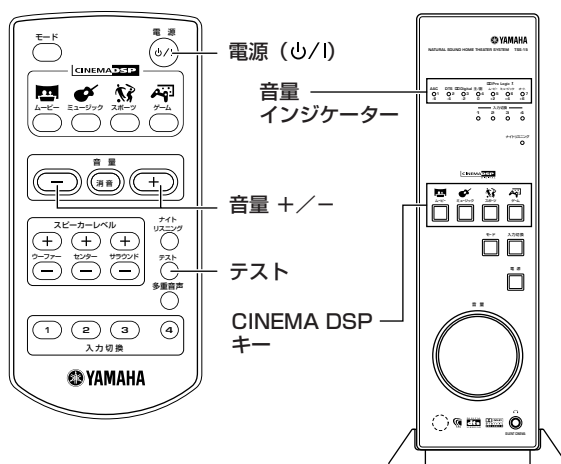
- 調節は必ず視聴位置で行ってください。
- システム全体の音量が低いとテストトーンが聞こえないことがあります。あらかじめシステム全体の音量を適量に上げておいてください。

1 電源（⏻/I）キーを押し、電源を入れる。

2 テストキーを押す。

テストトーンは、フロント(左)スピーカー→センタースピーカー→フロント(右)スピーカー→ サラウンド(右)スピーカー→サラウンド(左)スピーカー→サブウーファー...の順で巡回し、それぞれ約2.5秒間ずつ聴こえます。

ヒント

テストトーン出力中は右上の図のようにアンプユニットのCINEMA DSPキーの点灯状態により、どのスピーカーからテストトーンが出ているかを確認できます。

3 調整したいスピーカーからテストトーンが出ている間に音量＋/－キーを押して、ほかのスピーカーの音量と同じになるように調節する。

調節中は、テストトーンの巡回が一時停止します。＋キーまたは－キーを離してしばらくすると、再び巡回します。

ヒント

スピーカーの音量はアンプユニットの音量インジケーターで確認できます。

4 調節が終わったら、もう一度テストキーを押す。

テストトーンが止まります。

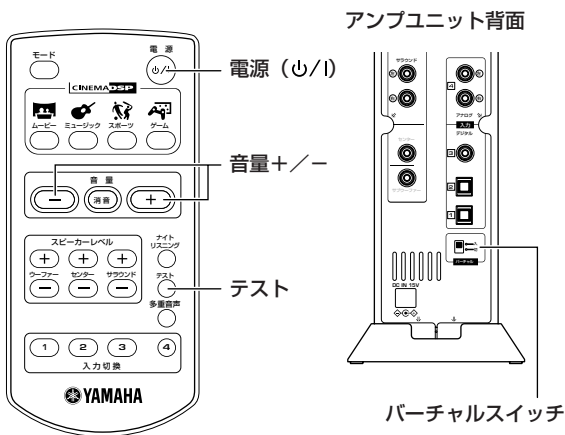
ヒント

- スピーカーの音量を初期設定(0dB)に戻すには、テストトーン出力中にアンプユニットのモードキーを2秒間押し続けます。
- アンプユニットの音量ツマミをテストトーン出力中に調節すると、システム全体の音量を増減することができます。

バーチャルサラウンドのスピーカー音量を調節する

本システムにはバーチャルサラウンド機能があり、サラウンドスピーカーなしでも5.1チャンネルサラウンドをお楽しみいただけます。バーチャルサラウンドの特長については、「バーチャルサラウンド」(17ページ)をご覧ください。バーチャルサラウンドでは、次の手順でスピーカーの音量を調節します。

ご注意

- 調節は必ず視聴位置で行ってください。
- システム全体の音量が低いとテストトーンが聞こえないことがあります。あらかじめシステム全体の音量を適量に上げておいてください。

1 電源（⏻/I）キーを押してアンプユニットをスタンバイ状態にする。

2 アンプユニット背面のバーチャルスイッチを「入」にする。

ご注意

電源オンの状態でバーチャルスイッチを「入」にしてもバーチャルサラウンドになりません。必ずスタンバイ状態にしてからスイッチを入れてください。

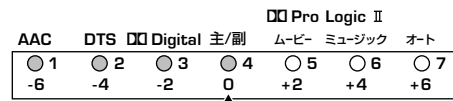
3 テストキーを押す。

テストトーンは、フロント(左)スピーカー→センタースピーカー→フロント(右)スピーカー→サラウンド(右)スピーカー→サラウンド(左)スピーカー→サブウーファー...の順で巡回し、それぞれ約2.5 秒間ずつ聴こえます。

4 調整したいスピーカーからテストトーンが出ている間に音量+/−キーを押して、ほかのスピーカーと音量が同じになるように調節する。

調節中は、テストトーンの巡回が一時停止します。+キーまたは−キーを離してしばらくすると、再び巡回します。

ヒント

スピーカーの音量はアンプユニットの音量インジケーターで確認できます。

フロント(右)、(左)スピーカーの音量は、音量インジケーターの0より上(上図の0より右側)には設定できません。

ご注意

バーチャルサラウンドではサラウンドスピーカーの音量は調節できません。

5 調節が終わったら、もう一度テストキーを押す。

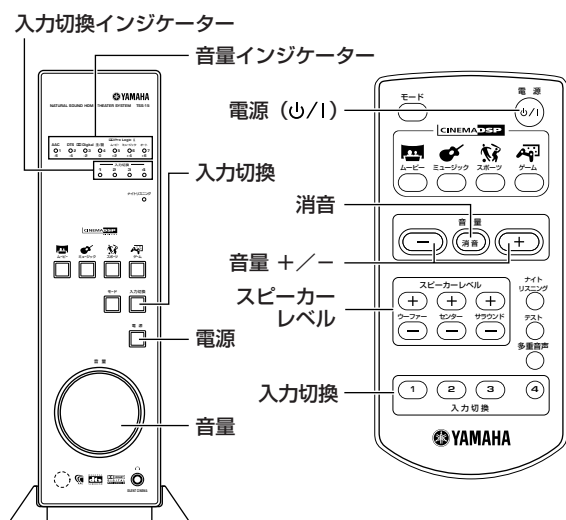
テストトーンが止まります。

ヒント

- スピーカーの音量を初期設定(0dB)に戻すには、テストトーン出力中にアンプユニットのモードキーを2秒間押し続けます。
- アンプユニットの音量ツマミをテストトーン出力中に調節すると、システム全体の音量を増減することができます。

音声を再生する

基本操作

アンプユニットに接続した機器の音声を次の手順で再生します。

1 **電源キーを押し、電源を入れる。**
アンプユニットの電源キーが点灯します。

2 **アンプユニットに接続した機器の電源を入れる。**

3 **リモコンの入力切換キー（1、2、3または4）を押して、入力ソースを選ぶ。**
アンプユニットの入力切換インジケーター(1、2、3または4)が点灯します。

ヒント
- アンプユニット背面の入力端子1〜4と入力切換1〜4キーは対応しています。入力端子1に接続した機器を再生するには、入力切換1キーを押します。
- アンプユニットの入力切換キーを何回か押して、入力ソースを選ぶこともできます。

4 **機器の再生を始める。**
再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **リモコンの音量＋/−キーを押して音量を調節する。**
アンプユニットの音量インジケーターが、0(最小)から7(最大)まで点灯して音量を表示します。

ヒント
アンプユニットの音量ツマミを左右に回しても音量(ボリューム)を調節できます。

ご注意
- 本システムはサンプリング周波数48kHz以下のデジタル信号(リニアPCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC)を再生できます。また、96kHzのリニアPCM信号を再生できますが、シネマDSP、ドルビープロロジックIIは機能しません。
- DTS-CDを早送りすると、プレーヤーによってはノイズが聞こえることがあります。

■ 再生音を聴きながら、スピーカーの音量レベルを調節する

テストトーンでスピーカーの音量を調節してあれば、十分にお楽しみいただけますが、再生中に各スピーカーの音量レベルをお好みに合わせて調節することもできます。調節できるスピーカーは、サブウーファー、サラウンド／センタースピーカーです。

ご注意
ヘッドホン使用時には調節できません。(＋/−キーを押しても無効です。)

サブウーファーの音量を調節する

スピーカーレベルキーのウーファー＋／−キーを押す。
＋キーを押すと音量が大きくなり、−キーを押すと小さくなります。
調節中は、アンプユニットの音量インジケータがサブウーファーの音量を表示します。

サラウンドスピーカーの音量を調節する

スピーカーレベルキーのサラウンド＋／−キーを押す。
＋キーを押すとサラウンドスピーカーの音量が大きくなり、−キーを押すと小さくなります。左右のサラウンドスピーカー音量は同時に調節され、別々に調節することはできません。
調節中は、アンプユニットの音量インジケータがサラウンドスピーカーの音量を表示します。バーチャル設定の場合は、サラウンドスピーカーの音量は表示されません。

センタースピーカーの音量を調節する

スピーカーレベルキーのセンター＋／−キーを押す。
＋キーを押すと音量が大きくなり、−キーを押すと小さくなります。
調節中は、アンプユニットの音量インジケータがセンタースピーカーの音量を表示します。

■ 一時的に音声を消す（消音する）

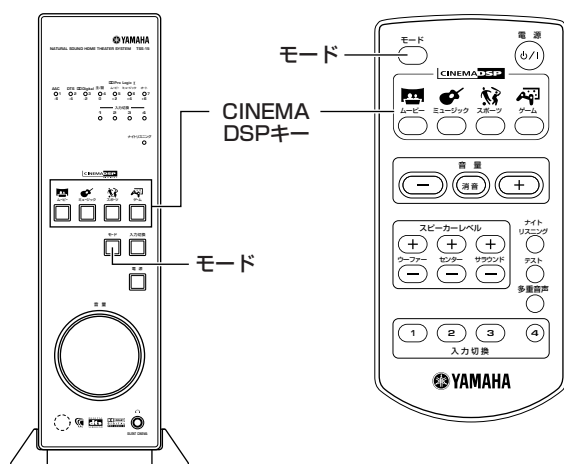
消音キーを押す。
前の音量に戻すには、もう1度消音キーを押します。

ヒント
- 消音中は、消音したときのレベルの音量インジケーターが点滅します。
- アンプユニットをスタンバイ状態にすると、消音は解除されます。

■ アンプユニットの使用を終了するときは

電源(⏻/I)キーを押してアンプユニットをスタンバイ状態にしてください。

シネマDSP音場を楽しむ

映画やコンサート、スポーツ中継などさまざまな再生ソースの音声を、シネマDSPの音場プログラム効果でさらに豊かに楽しめます。
再生するソースに合わせてムービー、ミュージック、スポーツ、ゲームの音場プログラムから選んでください。

1 **ソースを再生する。**
「音声を再生する」(14ページ)をご覧ください。

2 **CINEMA DSPムービー、ミュージック、スポーツまたはゲームキーを押す。**
アンプユニットのシネマDSPキーが点灯し、選択した音場プログラムを示します。

シネマDSPをキャンセルするには
選択しているCINEMA DSPキーをもう一度押すか、モードキーを押します。

■ シネマDSP音場プログラムについて

シネマDSPの音場プログラムの特長は次のとおりです。音場プログラムを選ぶときの目安にしてください。また、プログラム名にこだわらずにほかの音場プログラムも試していただき、再生ソースやご自分の好みに合った音場プログラムを選んでください。

音場プログラム	特長
ムービー	DOLBY SURROUND、DOLBY DIGITALまたはdtsマークのついたソフトに最適な音場プログラムです。ドルビーサラウンドやDTS サラウンド、AAC サラウンドのサウンドデザインの魅力を損なうことなく、さらに豊かな音場で映画館さながらの臨場感を体験できます。
ミュージック	ライブコンサートホールの熱気と興奮を感じさせる音場です。
スポーツ	場内の雰囲気や歓声に包まれてスポーツ観戦を楽しめます。
ゲーム	パソコンのゲームやテレビゲームの3次元的なサラウンド効果を楽しめます。

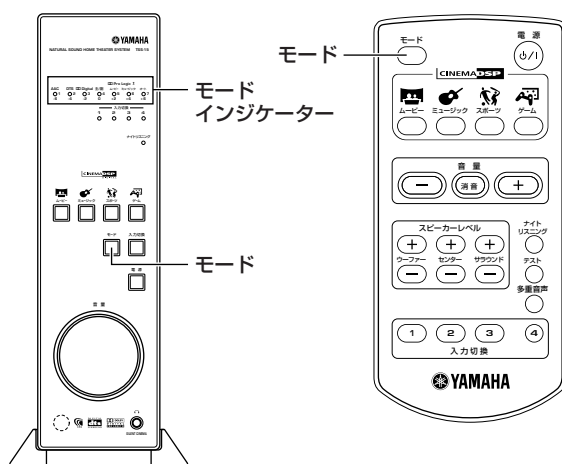
入力ソースが2チャンネルの場合
ドルビープロロジックIIムービーがオンになり、5チャンネルで出力されます。

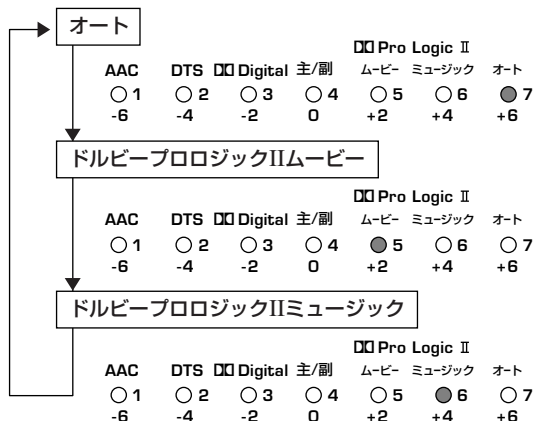
入力ソースが音声多重やモノラル1チャンネルの場合
シネマDSPの音場プログラム効果はかかりません。

ソースの音声をそのまま再生するには
シネマDSPの音場効果をかけずにソースのオリジナルサウンドを再生します。「ソースの音声を忠実に再生する」(16ページ)をご覧ください。

その他の再生モードで楽しむ

ソースの音声を忠実に再現する

モードをオートに設定すると、CDなどの2チャンネルソースをそのまま再生したり、ドルビーデジタルやドルビープロロジック、DTS 、AACで処理されたサウンドを忠実に再生できます。スムースで正確な音の移動など、オリジナルならではのサウンドデザインをお楽しみいただけます。ドルビープロロジックIIを選択すると、2 チャンネルソースを仮想的に多チャンネル化できるので、すべてのスピーカーから音を出してお楽しみいただけます。

1 **ソースを再生する。**
「音声を再生する」(14ページ)をご覧ください。

2 **モードキーを押してオート、ドルビープロロジックIIムービーまたはドルビープロロジックIIミュージックを選ぶ。**
モードキーを押すたびに次のように切り替わり、アンプユニットのモードインジケーターが選択したモードを示します。

AAC、DTSまたはドルビーデジタル信号を入力すると、モードインジケーターのAAC、DTSまたは Digitalが点灯します。

再生モード	特長
オート	ドルビープロロジックIIデコーダーはオフになります。音楽CDは2.1チャンネルで出力されます。ドルビーデジタル、DTS、AACのチャンネル数は自動的に検出され、対応するスピーカーから音が出ます。
ドルビープロロジックIIムービー	映像系ソースに適しています。ビデオテープなどの音声をすべてのスピーカーから出力して楽しめます。
ドルビープロロジックIIミュージック	音楽系ソースに適しています。音楽CDなどの音声をすべてのスピーカーから出力して楽しめます。

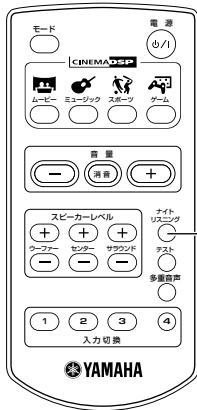
ご注意

モノラルソースをドルビープロロジックIIムービーで再生すると、センタースピーカーから音が出ます。フロントやサラウンドスピーカーからは音はほとんど出ません。

設定の保持について

- アンプユニットをスタンバイ状態にすると、そのとき選択されていた入力切換の設定と音場プログラム(またはオート／ドルビープロロジックIIの設定)が記憶され、次回電源を入れると自動的に前回の設定になります。
- 入力を切り替えると、その入力ソース(1〜4)で最後に設定していた音場プログラム(またはオート／ドルビープロロジックIIの設定)が自動的に選択されます。

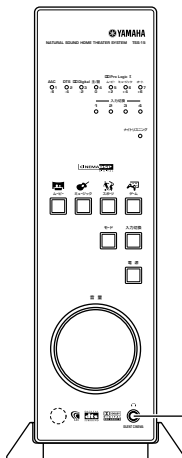
ナイトリスニング

大きな効果音を抑えながら、セリフなどははっきり聞こえるように再生されます。夜間など小音量で再生するときでもシネマDSPなどすべての音場をお楽しみいただけます。

1 **ソースを再生する。**
「音声を再生する」(14ページ)をご覧ください。

2 **シネマDSP音場プログラムなど、お好みの音場を選ぶ。**

3 **ナイトリスニングキーを押す。**
アンプユニットのナイトリスニングインジケーターが点灯します。
ナイトリスニングキーを押すたびに、オンとオフが切り替わります。

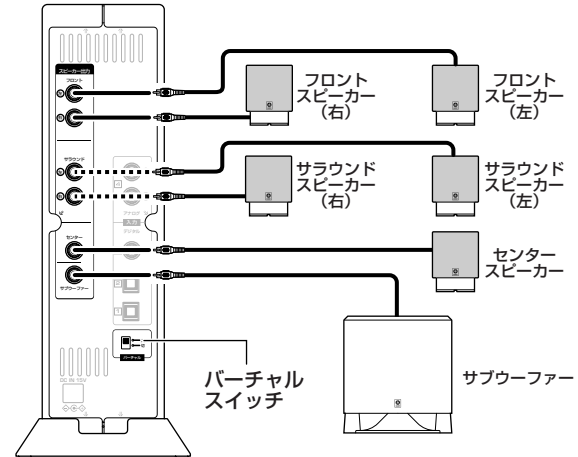
サイレントシネマ

ドルビーデジタル、DTSなどのサラウンドサウンドの音場をヘッドホンで擬似的に再現するサイレントシネマで音声を楽しめます。
ヘッドホンを🎧SILENT CINEMA端子に接続するだけでサイレントシネマモードになります。

ヒント

- ヘッドホンを接続しているときは、スピーカーから出力される音量が下がります(約60dB)。
- 入力ソースが2チャンネルのとき、モードキーをオート(ドルビープロロジックIIがオフ)に設定した場合は通常のステレオ再生になります。

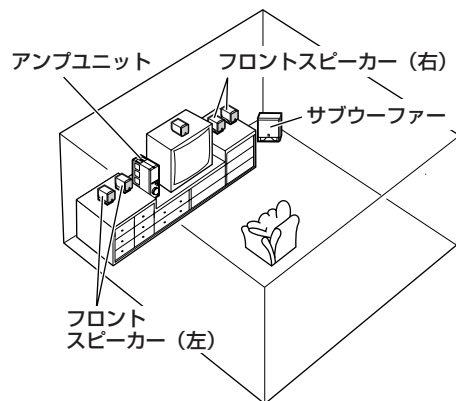
バーチャルサラウンド

サラウンドスピーカーを使わなくても、5.1チャンネルソースを仮想サラウンド音場で再現できる機能がバーチャルサラウンドです。お部屋のレイアウトなどからサラウンドスピーカーを設置できない場合でも、サラウンド音場をお楽しみいただけます。
アンプユニット背面のバーチャルスイッチを「入」にするだけで、バーチャルサラウンドで再生できます。

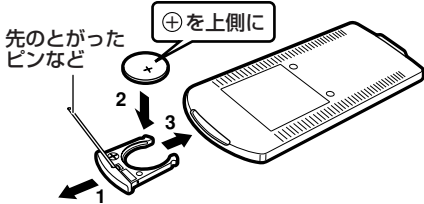
アンプユニット背面

ご注意

バーチャルスイッチの切り替えは、必ずアンプユニットをスタンバイ状態にしてから行ってください。電源がオンのときにバーチャルスイッチを「入」にしても、バーチャルサラウンドにはなりません。

■ サラウンドスピーカーを追加してバーチャルサラウンドをさらに楽しむ

フロント、センター、サブウーファーだけでもバーチャルサラウンドをお楽しみいただけますが、サラウンドスピーカーを接続し4台のフロントスピーカーとして使うと、迫力のある音を再現できます。
サラウンドスピーカーからはフロントスピーカーと同じ音が出るので、スピーカーの位置を工夫することで音の広がりを変えることができます。

オートスリープ(省エネルギー機能)について
アンプユニットの電源をオンにしたまま長時間(約24時間)にわたって本体やリモコンを操作しなかった場合、アンプユニットは節電のため自動的にスタンバイモードになります。

操作する

故障かな？と思ったら

使用中に本システムが正常に作動しなくなった場合は、以下の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に作動しない場合は、アンプユニットの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

■ 全般

症状	原因	解決方法	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまうか、またはスタンバイ状態に戻ってしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。	11
	アンプユニットが落雷や過度の静電気など、外部からの強い電気ショックを受けた。	アンプユニットをスタンバイ状態にし、電源コードを抜いて、約30秒経ってから差し込み直して、電源を入れてください。	−
音が出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	8〜11
	再生するソースの選択が適切でない。	入力切換キーで正しく選んでください。	14
		DTSインジケーターが点滅しているときは、別の入力ソースに切り替えてからもう一度もとの入力ソースを選んでください。	−
	スピーカーの接続が不完全。	スピーカーの接続を確認してください。	10
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。	14
	消音されている。	リモコンの消音キーまたは音量+/−キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	14
フロントスピーカー以外のスピーカーから音が出ない。	モードキーでオートを選択している。	CINEMA DSPキーで別の音場プログラムを選ぶか、モードキーでほかの再生モードを選んでください。	15、16
	ドルビーサラウンドやドルビーデジタル、DTSにサラウンド効果の信号が入っていない。	CINEMA DSPキーで別の音場プログラムを選ぶか、モードキーでほかの再生モードを選んでください。	15、16
	サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号を入力すると、フロントスピーカーからのみ音が出ます。	————	−
センタースピーカーから音が出ない、または非常に小さい音しか出ない。	センタースピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	リモコンのスピーカーレベル(センター +)キーを押してセンタースピーカーの音量を上げてください。	14
	ドルビーデジタル、DTS、AACにセンターチャンネル信号が含まれていない。	————	−
サラウンドスピーカーから音が出ない、または非常に小さい音しか出ない。	サラウンドスピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	リモコンのスピーカーレベル(サラウンド +)キーを押してサラウンドスピーカーの音量を上げてください。	14
	ドルビーデジタル、DTS、AACにサラウンド効果の信号が含まれていない。	————	−
サブウーファーから音が出ない、または非常に小さい音しか出ない。	ソースに低音信号が含まれていない。	————	−
	サブウーファーの音量レベルが最小まで絞られている。	リモコンのスピーカーレベル(ウーファー +)キーを押してサブウーファーの音量を上げてください。	14

症状	原因	解決方法	参照ページ
ドルビーデジタル信号のソースを入力し、DDDigitalモードを選択しているのに、センタースピーカーとサラウンドスピーカーから音がでない。	ドルビーデジタル信号(2チャンネル)のソースを入力している。	入力ソースが5.1チャンネルに対応している場合は、再生機器側で5.1チャンネルを選択してください。(入力ソースが5.1チャンネルに対応していない場合は、DDPro Logic II ムービー／ミュージックモードでサラウンド音声をお楽しみいただけます。)	16
ドルビーデジタルまたはDTSの再生ができない。(本機のDTSまたはDDDigitalモードインジケーターが点灯しない。	接続したDVDプレーヤーなどが下記の設定にされてない。 ・「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」 ・「出力：デジタル」かつ「信号の種類：ドルビーデジタルまたはDTS」	お使いのDVDプレーヤーなどの取扱説明書をご覧になり、正しく設定してください。	–
	アンプユニットとプレーヤーがデジタル接続されていない。	アンプユニットとプレーヤーのデジタル端子どうしを接続してください。	9
ハム音が出る。	アナログ入力端子の接続が不完全。	アナログ入力端子の接続を確認してください。	9
音が歪む。	入力信号のレベルが高すぎる。	接続機器側の出力レベルを下げてください。	–
ノイズが気になる。	入力信号のレベルが低すぎる。	接続機器側の出力レベルを上げてください。	–
	接続が不良または不完全。	接続をやり直してください。	8〜10
アンプユニットが正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
デジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	アンプユニットがデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	アンプユニットをそれらの機器から離して設置してください。	–

■ リモコン

症状	原因	解決方法	参照ページ
リモコンで操作できない。	リモコン操作範囲から外れている。	アンプユニットのリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	4
	アンプユニットのリモコン受光窓に直射日光や照明(インバーター蛍光灯など)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	電池が消耗している。	電池を交換してください。 1. 先のとがったピンをリモコン背面中央の小さい穴に差し込み、電池ケースを引き出します。 2. リチウム電池を入れ換えます。 3. 電池ケースを戻します。 先のとがったピンなど / ⊕を上側に	–

用語解説

AAC(アドバンスト オーディオ コーディング)
MPEG-2オーディオ規格の1つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声を楽しむことができます。

DTS（Digital（デジタル） Theater（シアター） Systems（システム））
多くの映画館で採用されている最大5.1チャンネルのサラウンドシステムです。チャンネル間のセパレーションも良く情報量も多いので、リアルな音響効果が得られます。

LFE(ローフリケンシーエフェクト)0.1チャンネル
音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

PCM
圧縮せずにデジタル信号に置き換えられた信号です。CDでは、44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit～192kHz/24bitで記録されているので、CDよりも高音質で再生できます。

エンコード／デコード
信号や情報を加工、圧縮、デジタル化することをエンコードといいます。エンコードすることで、非常に多くの信号や情報量を一枚のCDやDVDなどに収録することができます。
エンコードされた信号はそのままでは音として聞くことができません。これをもとの信号に戻すことをデコードといい、音として聞くことができます。この装置がデコーダーで、本機はドルビーデジタル、ドルビープロロジックII、DTS、AACの各デコーダーを装備しています。

音場
音は発生源から直接人間の耳に届くだけでなく、壁や天井に反射してやや遅れて到達したり(初期反射音)、複雑に反射を繰り返しながら消えていったりします(後部残響音)。こうしたさまざまな音を聴くことで、人間はその場所の広さや形状を知覚することができます。このような建物などが持つ固有の音響空間を音場と呼びます。

サイレントシネマ
ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマDSP
ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

ドルビーサラウンド
映画館や劇場では、観客席を取り囲む多くのスピーカーによって、シーンに合わせて前後左右に移動する効果音、体全体を包み込むような立体サウンドが楽しめます。こうした臨場感を実現するのがドルビープロロジックでデコードするドルビーサラウンド入力です。本来、ドルビーサラウンド方式は、左右フロント(2チャンネル)＋センター(1チャンネル)＋サラウンド(1チャンネル)の合計4チャンネル構成ですが、家庭向けの放送メディアやビデオでも楽しめるよう、ステレオ(2チャンネル)との互換性が保たれ、ステレオ再生が可能なご家庭のAVシステムで手軽に楽しめることが大きな特長となっています。

ドルビーデジタル
ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロントの3 チャンネル(メインL/R 、センター)と、サラウンドのステレオ2 チャンネル、低音域専用のLFE チャンネルの合計5.1 チャンネルで構成されます。
サラウンドがステレオ2 チャンネルで収録されているため、音の移動感、木々のざわめきや波の音などの繊細な環境音も明確に再現できます。

ドルビープロロジックII
2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のムービーモードと、音楽などのステレオソース用のミュージックモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

主な仕様

アンプユニット

定格出力

フロント／センター／サラウンド：6W(1kHz,4Ω、10%THD)
サブウーファー：18W(100Hz,4Ω、10%THD)

入力感度 200mV

ヘッドホン出力/インピーダンス .... 450mV/30Ω(1kHz,200mV)

再生周波数 .... 40Hz－20kHz

寸法(幅)×(高さ)×(奥行き) .... 102×260×196mm

質量 1.3kg

消費電力 40W

待機時消費電力 約0.8W

フロント／センター／サラウンドスピーカー

型名 .... フルレンジ、密閉型

型式 .... 5cmコーン、防磁型

インピーダンス 4Ω

寸法(幅)×(高さ)×(奥行き) .... 70mm×91mm×110mm

質量 0.4kg

サブウーファー

型名 .... ヤマハ・アクティブサーボ・テクノロジー方式

型式 .... 13cmコーン、防磁型

インピーダンス 4Ω

寸法(幅)×(高さ)×(奥行き) .... 220mm×239mm×220mm

質量 3.4kg

＊仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当あたりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口

受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● **保証期間**
お買い上げ日から1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!

愛情点検

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1